海辺・川辺調査レポート

■ 名　前（ふりがな）	釘　尾　　美　咲（くぎお　みさき）
■ グループ名	
■ 学校名	鹿島市立東部中学校
■ 学　年	中学１年生
■ 年　齢	１２才
■ お手伝いしていただいた方の名前	釘尾　学（父）　中村　安弘（干潟体験担当者）

■ レポートした場所	佐賀県鹿島市　七浦地区海岸付近
■ レポートの題名	私たちの有明海
■ 内　容	私の住む鹿島市は、有明海に面した自然が豊かな町です。山ではミカンが作られ、有明海ではノリや貝などが豊富に捕れます。 有明海には大きな干潟が広がり、日本でもここでしか見られないムツゴロウや貝などが棲んでいます。またここでは潟スキーを体験したり、泥んこになって遊ぶ施設があり、今では全国から年間約１５０００人もの子供たちが体験に来るそうです。その中には有明海の環境をテーマにした体験もあり、自然の大切さを勉強しています。 しかし、その豊かな海‘有明海’がおかしくなっているというのです。ひとつは、海底に棲む二枚貝のアゲマキやタイラギが全然捕れなくなっているそうです。父に聞くと「海洋センターの前の干潟では、誰でも捕れるくらい沢山のアゲマキがいたのに、今は何処にもいない。」と言う事でした。本で調べてみると確かに、魚介類の捕れる量が１０年前の 1/3 にまで減っていました。 もうひとつは、地元漁師の生活を支える養殖ノリの生産が不安定になってきたことだそうです。２０００年には生産量が、これまでの半分以下まで落ち込みました。大雨と高温による大量の赤潮発生が原因だと言われているそうです。その他に数年前からニュースなどで言われている諫早湾干拓工事については私も知っていましたが、その影響ではないかと言われていますが、まだ分からないそうです。 でも、有明海が以前と変わってきたのは確かだそうです。干拓により干潟は少なくなり、コンクリートの海岸線が続いています。鹿島でも昔

のままの海岸が残るのは、ほんの少しになっています。

　また、海の汚染のひとつが生活排水です。都会では下水道が普及していますが、鹿島市ではまだ約２０％しか普及していません。私たちの普段の生活から考えなければいけないと思います。それから、今言われているのが森、川、海を一つの生態系として環境を考える事だそうです。私も佐賀県の育樹祭に海洋クラブのメンバーとして参加し、落葉広葉樹の植樹を行い、「山を育てることが海を生き返らせる事につながるんだ」と感じました。鹿島でも毎年山を杉林から落葉広葉樹に変えていく試みがされていて、子供から漁師さんまで広く参加をしています。

　諫早湾の干拓工事により諫早の貴重な自然が壊されました。有明海も潮位や潮流が変化したそうです。有明海全体への影響は、いま生き物たちが私たちに教えてくれているんだと思います。私たち一人一人が環境に注意を払い、有明海の変化を見つめていくことが、未来まで有明海の豊かな自然を残すことになると思います。

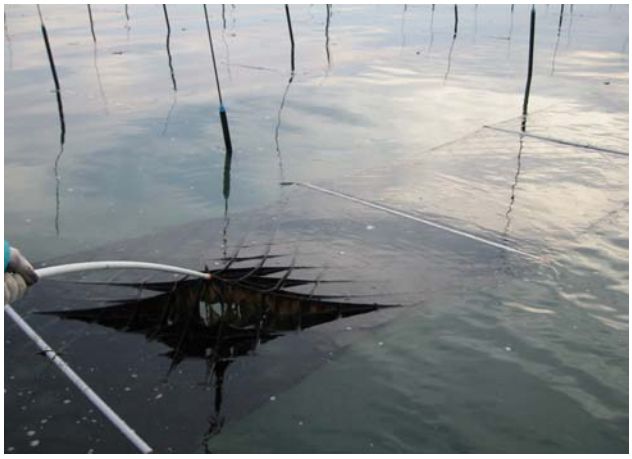
　将来も楽しく干潟体験ができる有明海であって欲しいと思います。

◆海洋センター前の有明海

◆干潟体験

◆今も残る自然の海岸（四つ手網）

◆干潟体験



◆養殖ノリ

◆干潟の野鳥